2021年12月吉日発行

宇津貫みどりの会 第100号

宇津貫みどりの会
連絡先　城所幸子
TEL/FAX 042-636-2466

今年も残りわずかとなりました。

1991年10月に発足した「宇津貫みどりの会」は、今年が30年という節目の年でした。偶然にも機関紙100号とも重なり、記念すべき年になりました。みなみ野の開発工事が始まって間もなく、女性15名で立ち上げた会には、今では47名 が所属しています。男性が多くなり、作業範囲も作業効率も大幅に拡張できるようになりました。そして他団体との協働活動や地域の企業の参画、体験学習の受け入れなど活動が大きく飛躍してまいりました。

会の目的である「宇津貫緑地の自然環境の保全と里山文化の継承」に邁進しているところです。しかしながら、近年の自然環境の変化や手入れを怠ったために起きるとされるナラ枯れ 問題、皆伐をすればパイオニア植物が繁茂することなどの課題もあります。

この度、機関紙を創刊号から読み返し、30年を振り返りました。その歩みは平穏で来たわけではなく、常に課題と向き合ってきたのです。その都度、話合いをし、協力し合い、対応して乗り越えてきたのです。これからも前向きに里山の楽しみを見つけながら、活動してまいります。ご支援の程よろしくお願いいたします。

宇津貫みどりの会
城所　幸子

会員募集中！

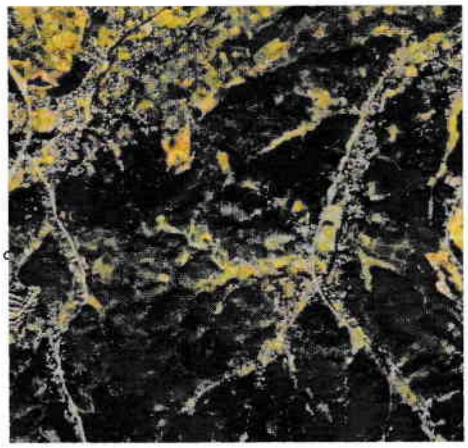
宇津貫みどりの会に参加して、里山の保全に汗を流してみませんか。月3、4回山の手入れを行っています。自然観察や健康増進にいかがですか。とても楽しい会ですよ!!

ご連絡は、城所　042－636－2466

当会のホームページをご覧ください。
http://utsunukimidori.ie-yasu.com/

又は、QRコード

みなみ野シティ誕生



〔国土地理院地図 1984〜86〕

JR八王子駅からわずか4㎞ばかり南に、「八王子みなみ野シティ」(以下「みなみ野シティ」)がある。JR横浜線の八王子みなみ野駅西口を出て交番の横を通り、西へメインロードをゆっくり登って行くと、現代の粋を集めたような街路がつらなる。その道から一歩入ると、みなみ野六丁目辺りの住宅街に至る。この街区には一本の電信柱もない。道には、雨水が地下に浸透していく透水性舗装が施されている。当時の最新技術をもって街づくりが行われたのだ。この新しい街がどのように産まれたのかを概観しよう。

開発前のみなみ野シティ

1980年頃から始まった開発前のみなみ野シティは、「宇津貫町」と呼ばれていた。その地のほとんどは、小山に占められ、5か所の主だった谷戸に、千人余りの人々が住んでいた。町の広袤(こうぼう)は、2.6148㎢と、八王子市の面積の1.4%を占めていた。

明治元年(1868)の『村明細帳』によると、当時の宇津貫村の世帯数68、人口381人であったから、百年以上たっても、その人口は2.5倍余りにしか増えていない。まるで、外の世界から取り残されたような町だったのだ。車がやっとすれ違えることができる、細い道しかなく、バスの便すらなかった。店といえば、「せいみせ」と呼ばれたよろず屋が一軒あるだけだった。

横浜線

〔JR八王子みなみ野駅〕

明治41年(1908)9月23日、横浜線が開通した。八王子〜 東神奈川間42.6㎞。途中の駅は、相原、橋本、淵野辺、原町田、長津田、中山、小机の7駅だった。この新線によって、絹製品を始めとする物資や人々の輸送が格段に便利になった。しかし、駅のない宇津貫の人々にとっては、村を南北に分断されたに過ぎなかった。何の交通の便をもたない宇津貫の人々にとって、新駅の設置は、悲願となった。昭和47年(1972)3月7日、宇津貫町会長らは、宇津貫駅(仮称)新設を議会に請願した。

また、平成3年(1991)11月6日には、八王子市と住民が、「八王子ニュータウン新駅設置協議会」を発足させている。しかしながら、本来、請願駅設置費用は地元負担が決まりであった。因みに相原駅は、横浜鉄道株式会社発起人の一人であった青木正太郎が私費1500円を投じて設置されている。幾度となく請願を経て新駅ができたのは、横浜線開通から約89年たった平成9年(1997) 4月1日のことだった。

開発の始まり

〔発掘の様子 平成7年(1995)〕

宇津貫の開発予定地は、山林・原野80%、田畑10%、宅地10%とほとんど平地がない地勢だった。この地を新しい街に造りなすには、山を削り、谷を埋めなければならない。それには莫大な開発資金を必要とした。また、対象地域のほとんどが市街化調整区域に含まれ、開発が規制されていた。小田急、京王、興和不動産の3社が合計230㏊ほどを入手していたけれども、地域全体を開発するという訳にはならなかったのだった。

開発前の大規模調査

宇津貫の歴史は、旧石器時代までに遡る。開発に先立って平成2年(1990)から遺跡調査が実施され、その成果が、八王子市発行の『新八王子市史 資料編Ⅰ◇原始・古代』に簡潔にまとめられている。

9世紀前半から10世紀中葉まで、この地で須恵器が生産されていた。「御殿山窯跡群」として知られる。でき上った製品は、今の神奈川県方面に販売されていたようだ。また、武蔵国分寺の補修用瓦も、数は多くはないものの焼かれていた。宇津貫緑地の中でも、G50とG51の二基の窯跡が 発見されており、この内G50の窯跡は、今でもはっきり確認できる。

〔宇津貫緑地内G50窯跡〕

ニュータウンを建設するには山を削り、谷を埋める大型工事が行われる。それは自然を破壊することにつながる。そこで、開発が環境に与える影響を調査・評価する「環境アセスメント」が行われる。みなみ野シティの開発に当たっても、東京都環境影響評価条例に基づき、環境アセスメントが実施された。その結果は、『環境影響評価書 八王子ニュータウン整備事業』(東京都)で知ることができる。

みなみ野シティの開発

〔宇津貫緑地調整池の工事〕

昭和50年(1975)ころから、八王子市は「八王子市土地利用計画」を検討していた。昭和51年(1976)、日本住宅公団が「八王子地域開発整備計画調査」を実施した。更に、昭和53年(1978)、宅地開発公団が「八王子南部地区の開発整備基本構想」をまとめ、市に提示した。八王子市もこの構想に協力することに合意する。そこで昭和54年(1979)、市は同公団に対し、開発に係わる調査を要望した。宇津貫の開発が、いよいよ動き出したのだ。

地域の住民にも動きが出た。昭和55年(1980)5月、宇津貫、片倉、小比企、大船の住民がメンバーとなって、「八王子南部地域街づくり推進協議会」を設立した。一方、開発に反対する人々は、「南八王子土地区画整理事業を考える会」を結成した。

昭和60年(1985)12月、「南八王子土地区画整理事業」として正式に決定され、昭和63年(1988)10月8日には、南八王子土地区画整理事業の施行及び事業計画が、建設大臣(当時)により認可された。それにより発表された『南八王子土地区画整理事業 事業計画概要』(住宅・都市整備公団)において、次の事業の概要は次のように示されている。

事業名称　：八王子都市計画事業 南八王子土地区画整理事業
施行者　：住宅・都市整備公団
施行面積　：約392.5ha (宇津貫町、片倉町、大船町、小比企町の各一部)
事業手法　：土地区画整理事業
事業施行期間：昭和63年10月～昭和77年3月
総事業費　：約1,060億円

この計画は、事業が進むにつれ変更されていった。平成20年(20083月に刊行された『八王子みなみ野シティ まちづくりのあゆみ』(UR都市機構)では次のようになっている。

(3) 施行面積:　：約394.3ha
(5) 事業施行期間　：昭和63年度～平成24年度
(6) 事業費　：約2,560億円
(7) 計画戸数　：約8,650戸
(8) 計画人口　：約28,000人

平成7年(1995)3月30日、「まちびらき式典」が挙行された。同年11月2日の新駅起工式において、「八王子みなみ野シティ」という愛称が住宅・都市整備公団によって発表された。西片倉、兵衛、みなみ野、七国などの新しい町名が生まれ、宇津貫という町の名は、昔の和田内谷戸辺りに、かすかに残された。東京新聞が、「最後の大規模開発「ようやく」八王子みなみ野シティ 10年遅れで造成終了」と報じたのは、平成20年(2008)5月16日のことだった。

【参考文献】

『新八王子市史』通史編1 原始・古代; 通史編6 近現代(下) (八王子市)
『新八王子市史』 資料偏Ⅰ◇原子・古代 (八王子市)
『村明細帳集成』(八王子市)
『横浜線物語』(毎日新聞社)

宇

属 雄二

宇津貫みどりの会のあゆみ

1989	10	八王子ニュータウンの開発起工式開催　このころの人口1055人
1991	10	15名の有志で”宇津貫みどりの会”発足　地元樹木の保存運動を始める
	12	9号緑地(福昌寺裏)で初めての篠刈
1992	05	機関紙が創刊される
1993	04	東京都自然保護団体№39に登録される
	12	1号緑地(宇津貫緑地)の一部使用許可が下りる
1995	04	初めての植物移植（宇津貫緑地へ山野草を移植）
	10	初めての廃油石鹸作り
	11	JR横浜線の新駅起工式;　地区愛称が「八王子みなみ野シティ」に決定される
1997	03	八王子みなみ野シティのまちびらき式典挙行
	04	JR八王子みなみ野駅が営業開始
	06	宇津貫緑地の植物調査を始める
1999	01	宇津貫緑地に山の神を迎える
2000	05	みなみ野大橋開通　国道16号へのアクセスが容易になる
2002	05	絵地図『宇津貫・片倉むかし道』の完成
2004	01	八王子みなみ野シティの人口が、1万人を超える
2007	02	『みなみ野シティのルーツ 宇津貫・片倉 谷戸のくらし』発刊
2008	04	宇津貫緑地が公団から八王子市へ移管される
	04	”宇津貫緑地里山保全協議会”発足
	05	UR都市機構による「八王子みなみ野シティ」開発事業が終了
2010	01	八王子みなみ野シティの人口が、2万人を超える
2011	04	多摩信用金庫が賛助会員となる
	10	『宇津貫緑地の植物』発行
	11	20周年を記念して、「里山保全のあゆみ展」を開催
2012	03	多摩らいふ倶楽部によるコナラの実生苗移植
	10	ハチオウジアザミに関する記事が、東京新聞に掲載される
2013	04	宇津貫みどりの会のロゴ決定
2015	01	"ふるさとの森再生事業"の助成金を得て、ロウバイ50本を植樹
	04	日本水産株式会社が賛助会員となる
2017	04	『みなみ野シティのルーツ 宇津貫・片倉 谷戸のくらし』改訂・再販
	10	"八王子FM"がみなみ野4丁目に開局
	10	全国都市緑化はちおうじフェア「お月見のつどい」を開催
2018	10	台風21号の豪雨により、シイタケの窪地で土砂崩れが発生
2019	04	新型コロナウィルスによる緊急事態宣言に基づき、作業は自由参加とする
2020	03	株式会社明治が賛助会員となる

【編集後記】

さしもの新型コロナウィルスの流行も、秋以降ようやく下火になってきたかに見えます。お陰で、10月24日「秋の散策」、11月13日市主催「川の学習サポーター」養成講座、11月28日山の材料を使った「リースづくり」を実施することができました。

今後も毎月第4週は、会員以外の方々を対象としたイベントを、できるだけ行おうと計画しています。